

徒然の記

このところの我々を取り巻く自然のこと、人の世のことなど、尋常でないことがあまりに多く、われもまた先人の思いしごとく「徒然なるままに・・・」と、己の思いを綴ってみようと筆を執った。思いのままに、思いしときに、書き綴るものであれば、他愛もないこととして、読み流してもらえれば尚良し。

然れども、この一葉を読みし者よ、思いあらば、彼の思い聞かせ給へ。空ろに散じてしまうメールというものが良からう、以下に散らせ給え。 macoto@mtg.biglobe.ne.jp

[2011年7月6日(水) 記]

2023年1月31日

このところキリスト教宣教師の方と1回/月の割で聖書についての検討会？なるものを行っている。この2/8の来月の検討会を持つ予定だが、テーマを予言日ついてとしている。この予言なるものについての私の考え方を少し整理しておこうかと思う。私が君はどんな宗教を信仰しているのかと、たずねられれば一般の日本人同様に無宗教、無信仰と答えるだろうと思う。日本にはキリスト教、イスラム教のような強い宗教はない。もっとも一般的なもので神社神道と言われるものがあるが、この神社神道は開祖もいなければ聖書のような教義も見当たらない。このため我々は強い信仰心をもてるような宗教は存在していないのかも知れない。もちろん多くに人は自分で解決できないものは“神様、仏さま”となってしまうが、ここでの神は、ほぼ自然神と思われる。こうして日本人の多くは無宗教と言わざるを得なくなる。この隙にキリスト教やイスラム教が入り込む余地があるのだが、いずれの宗教も私に言わせれば矛盾点を抱えているように見える。

ところで2月もキリスト教者とお会いすることになっているが、今回は予言というテーマで話をする事になっている。予言に入る前に私の予言に対する考え方を示しておきたい。この予言というものは一般的に大きく二つに分けられると思う。一つは現状を踏まえて将来どうなるかの類推知ものである。もう一つはこちらが本来の予言かも知れないが、例えば寝ているときに将来のことが夢に現れた、一瞬間に閃いたとか、特に根拠もないものである。この2種類のいわゆる予言があると思う。ということ踏まえて聖書ではどんなものが予言と言われているのか問うてみたい。もし現在の状況を踏まえて予言と称しているのなら、何も宗教者が語るのではなく、研究者の考えることかも知れない。たとえば聖書のソドム、ゴモラの破壊等はまさにこの類の予言なのだろう。このことから類推すると、まさに現在の状況と似ていると思われる。人類も早晚滅亡する運命にあるのだろうか？一方の予言はこれまで予言者と名乗る方が現われては予言をしていくがあたらない。ある意味現在の退廃した時代は、天変地異も含めて衰退の現状をたどるだろうことは、私の類推でも予想できる。やはり人類は滅亡に向かうのだろうか？たぶんこうした事態を救うものが科学技術の高度化以外にないと思う。人類の宇宙進出を含めた話と思うが。人類の存亡をかけた戦いはこれからとなるだろう！